

# 研究所だより

第111号 平成31年3月

## ご退職される校園所長より

平成30年度末をもって御退職される7名の園長先生・校長先生よりお言葉をいただきました。これまで本市の保育・教育に御尽力されたことに感謝すると共に、後に残った私たちは、先生方の思いを受け継ぎ、さらに草津の子どもたちのために力を注いでいくつもりです。

先生方には今後ますますの御活躍を願っております。ありがとうございました。

順不同

### 人生100年時代に向けて～まなぶ、いかす、つながる～

草津第二小学校 北島 泰雄

教員生活38年の間に学校だけでなく市、県等の行政や研究機関に勤務したことは、自分自身の学びの広がりや深まりにつながったと思います。転任した時は、どうして子どもたちと離れるのかと思いましたが、それぞれの場所でいろいろな方との出会いがあり、学校以外の教育について教えていただいたことに感謝しています。

AI等科学技術の発達等による社会の大きな変化があり、今後もより急激な社会や価値観の変化が予想されています。そんな中でも、就学前や小・中学校における教育の重要性は変わらないと思います。

生涯学習・社会教育に携わる中で、「人と学び、その楽しさを知ること」、「学んだことを自分や周りの人のために生かすこと」、そして、「学びを通して人や社会とつながること」の重要性を学びました。これらのことは、学校教育でも大事にしていることであり、学校を卒業した後も学び続ける必要のある「人生100年時代」を迎えている今こそ、みんなと学ぶ楽しさを知らせることが重要であると思います。

学校（園・所）だけでなく、家庭・地域等と連携し、社会全体で子どもの育ちを支えている草津の教育が、今後ますます発展していくことを願っています。

今まで皆さんに多くの支えをいただいたことに感謝するとともに、生涯学習を実践する時がやってきたと感じている今日このごろです。



## 分岐点

志津小学校 藤野 利也

新規採用教員として栗東市（当時は栗東町でしたが）の小学校に赴任して2校13年間、草津市で24年間お世話になりました。13年目が終わるとき、校長先生から「栗東で10年経験したので、他市町の経験も積まれてはどうですか」と声をかけていただき、市外への転出を希望しました。草津市は教育実習でお世話になったところであり、希望地の一つとしてあげたところ、希望が叶う結果となりました。

思えば、この異動が私の教員人生の分岐点だったように思います。これまで表面的な薄っぺらい認識しか持ち得ていなかった同和問題、勝手に分かったつもりになっていた同和教育に正面から向き合う機会をたくさんいただきました。自分にとっては大きな衝撃でした。何も分かっていなかったという焦りを感じました。改めてスタートラインに立ち、自分が変わろうと第1歩を踏み出せたきっかけは多くの人との出会いでした。熱い思いを語り聞かせてくださった先輩や同僚、「先生頼むで」と思いを伝えてくださった保護者・地域、人を大切にしようとならうと動いていた子どもたちなど…。これらの出会いがあったからこそ今の自分があると思っています。育てていただいた恩返しができるのかと問われると恥ずかしい部分もありますが、少しずつでもお返ししていければと思います。



## 幸せになるための学校

山田小学校 時岡 善也

私が、中学校の教諭として松原中学校に新規採用されたのは昭和57年の4月でした。当時は、全国的に中学校での校内暴力が世間の注目を集め、荒れた教育現場に対する厳しい指摘や批判がマスコミでも大きく取り上げられた時代でした。様々な家庭環境や生き立ちの中で背負ってきた重荷や葛藤が、子どもたちの問題行動の背景にありました。同年9月、草津市から「訪宅指導の実施」についての指針が示され、その趣旨やねらいには、「学力の格差の克服が緊急の課題であること、子どもの背景にある家庭やきびしい差別の現実と親の教育に対する願いを把握すること、差別に対する憤りや親の願いを自分のものとする、子どもが自分の社会的な立場を自覚し、ふるさとに誇りを持って、生き抜く確信を持たせること」と、記されていました。私たちの先輩が取り組んできた、「同和教育」を通じて、たくさんの先輩、同僚、保護者や生徒、様々な人との出会いと学びに心から感謝しています。



そして、この2年間、小学校で勤務できたことで、新たな気づきと笑顔や元気を一杯頂くことができました。学校は、子どもや保護者だけでなく、地域やそこ勤務する私たち教職員を幸せにしてくれるところだと確信しています。草津の教育現場にはそういう空気と活気に満ち溢れています。益々の発展と充実を願っています。

## 感謝と期待を寄せて

常盤小学校 橋詰 雅章

今思い返しても恥ずかしいことですが、中学校教員の採用試験面接で、私は「5年程中学校に勤めて、学校が落ち着いたらやめて違う仕事につきたいと思っています。」と言いました。面接官に失笑されたように記憶しています。校内での暴力事件が連日報道されていた時代でした。私自身、子どもに落ち着きを持たせ、学校を「静かに学べる場にする」とが一番の目標のように考えていたのだと思います。

今は、「授業には活気がなければいけない。」と思います。静かに知識を吸収する場面は当然必要です。しかし学習をして得たことを基本に、更に浮かび上がってきた次の「疑問（なぜ）」を突き詰める活発な議論や活動こそが、今は「学習」というイメージにふさわしいと思うからです。

先日秋田県の八峰町立峰浜小学校に視察に寄せていただきました。まず驚いたことは、子どもたちの発言についてでした。どの子も、自分の言葉で、長いセンテンスで、意見をみんなに聞いてもらおうと発言していました。「ここまでどのように育ててこられたのですか。」と峰浜小学校の校長先生に尋ねたところ、秋田で以前から取り組んできた「探求型の授業」の成果ではないかということでした。探求型授業では、子どもたちが課題を取り出し、解決に向け考え、得られた自分の意見を何とか相手に伝えたいと必死に発言していたようです。そこへICT機器が導入され、より課題が明確化され、自分の意見をシャープに相手に伝えられる喜びを知り、子どもたちはさらに積極的に、従来の黒板やノートと併用してICTを情報収集・整理・表現の手段として活用しているようです。

草津においても、日々様々な学校で活気ある授業が展開されつつあります。私は一旦学校を離れ、草津の教育に期待を寄せて、応援していきたいと思います。今まで大変お世話になりました。

## 光陰矢の如し

高穂中学校 太田光則

新規採用から35年間にわたり、草津市の中学校で勤務させていただきました。あっという間の35年間でしたが、世の中は大きく変化しました。20歳代のころは、何もわからずに若さだけで突っ走っていたように思います。当時の生徒指導では初発型非行（喫煙や万引きなど）の対応で、右往左往していました。学級通信も手書きが主流の時代でした。ワープロが発売され早々に購入しましたが、画面には2行程度の文字だけが表示される物で、全体のレイアウトは大変分かりづらかったように思います。

35年間を振り返り、大切にしなければならないと思うことは、「教育は人なり」のとおり、教育者一人ひとりが自己研鑽に努め、多くの先輩方が築き上げてこられた「教育の幹」を大切にしつつ、情報化をはじめ、様々な分野で高度化が進んでいる現代において、取り入れるべきものを積極的に取り入れられることに感謝しつつ、教育のより良い発展につなげていくことに力を注ぐことだと思います。

長い間に渡り、わたしを支えてくださった多くの皆様に感謝を申しあげますとともに、草津市の教育が益々発展していくことを心から願います。ありがとうございました。

## 振り返って

老上幼稚園 河井 明美

のどかな田園の中に何が建つのだろうと想像していたところ、そこは自分が新採で赴任することとなる笠縫東幼稚園でした。笠縫東小学校の教室を間借りしながら荷物を運び込んだ開園当時の作業やドキドキした入園式の氏名点呼を思い出します。

これまでの教員生活では幼稚園現場を離れて3分の1を行政で仕事をしてきました。自分のやりたいことと自分に求められていることやしなければならない業務が一致しないのは当然のことと承知していたものの、当初は「どうして、なぜ私が？」と、晴れない気分にもなりました。それぞれに自分の置かれているところから逃げ出せないのであれば「前向きに…、楽しみながら…」の思いで幼稚園教育の充実に向けて発奮してきたように思います。多くの方々との出会いの中で得た経験は、自分の大切な宝物になりました。様々なところで支えていただきました皆様に感謝申し上げます。

時代が変わり、保育ニーズや子育て支援の仕組みが変化しても変わらないものは屈託のない子どもたちの笑顔と子どもに対する愛情、教育・保育に対する情熱でなければなりません。これからの就学前教育の益々の充実・発展が、小学校以降のより豊かな子どもたちの学びや育ちにつながるよう願っています。



## あふれる感動体験を

常盤幼稚園 三上 弘美

大人の階段を上りかけたばかりの自分が「先生」と呼ばれることに気恥ずかしさを感じながら教員としてのスタートを切った日から、子どもたちとの数々のエピソードに一喜一憂したものです。約30年前に担任をしていた時の子どもの感動体験の一事例として今も思い出すと自然と笑みがこぼれる話があります。

連日友だちと数種類の雨樋の組み合わせ方や傾斜のつけ方を工夫して繋げて、堅い泥団子を転がして遊んでいたR児が、誕生日のプレゼントに幼稚園にあるのと同じ雨樋を買ってほしいと保護者にねだったのです。普通の雨樋数種類数本がR児にとってはどの玩具よりも魅力的な心揺さぶられる遊びができるものとなっていたようでした。

今幼児教育は、少子高齢化や保護者の生活スタイルの変化により10月からの無償化も含め大きな変革の流れの中にありますが、子どもの目が生き生きと輝く五感を使った感動体験をシャワーのようにさせてあげることが今後も変わらず大切であると思っています。

ご縁のあった園児・保護者、地域の方、関係諸機関そして志を同じくして一緒に働かせていただいた職場の皆様、充実した教員生活を送ることができましたことを感謝します。

## 平成30年度 草津市教育研究奨励事業

今年度も多くの先生方が本事業に挑戦していただきました。ありがとうございました。

教育研究奨励事業は、市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の促進を図るため、個人またはグループの研究に対して奨励賞を授与し、もって教育・保育現場における意欲的かつ創意あふれる学級、学年、学校・園・所の経営ならびに学習指導法の改善と充実を図り、教職員・保育士の資質向上に資するとともに、草津市の教育・保育の向上を図ることを目的としています。

今年度の教育研究奨励事業の応募部門は、以下のとおりです。

①	ステップアップ研究部門 (現職の経験年数は問わない)	これまでの研究実践をふまえて、さらに創造的な実践や今日的課題を追究する実践を積み重ねた研究
②	フレッシュ研究部門 (若手教員を対象とした研究)	経験10年未満の教職員が行う実践研究
③	就学前教育研究部門 (幼稚園・保育所・こども園の職員を対象とした研究)	幼児教育・保育の実践を整理し、レポートとしてまとめることにより教育力・保育力を向上させる実践研究
④	アイデア部門	日々の保育や教育活動で役に立つオリジナルのアイデアやあると便利なオリジナルのグッズを作成

今年度の応募状況は以下の通りで、応募総数は39点です。

小学校	26点	中学校	8点	幼稚園	5点
①就学前教育研究部門			幼稚園	5点	
②フレッシュ研究部門			小学校	14点	中学校 5点
③ステップアップ研究部門			小学校	10点	中学校 3点
④アイデア部門			小学校	2点	

各部門に、最優秀賞、優秀賞、奨励賞があり、その他に、特別賞、教育研究所賞があります。

特別賞は、単年の研究に終わらず、継続的に奨励事業に参加し、優れた実践研究やアイデアやグッズの作成を行っている方へ贈られます。また、教育研究所賞は、研究所が指定する分野（道徳や外国語教育、ICTの活用など）の中から優れた研究論文を選んでいきます。

応募者は若手の保育士、教職員から管理職に至るまで幅広く、また継続して応募される方も多く見られました。研究主題は多岐にわたり、体力づくり、教科指導、ICT活用、学級経営、思考力向上に係るものや、プログラミング学習や言語活動の充実など、今日的教育課題に即したものが多くありました。

平成31年2月22日（金）には、教育研究所2階研修室において、研究奨励事業表彰式を行いました。式には教育委員の方々をお迎えし、川那邊 正 教育長より賞状が、草津市教育会 寺尾 信一 会長より副賞が授与されました。最優秀賞に輝いた先生方には、次年度夏季休業中の研究発表大会において研究内容を発表していただく予定です。

今後とも教育研究所の研究奨励事業へのご支援、御協力をよろしく申し上げます。



平成30年度 教育研究奨励事業 審査結果						
部門	No.	形態	応募者氏名 グループ名	所属	研究主題	賞区分
就学前教育	1	個人	宇野 智子	草津中央おひさまこども園	わくわく・どきどきを生み出す遊び環境 ～大人も子どもも心躍る保育をめざして、おひさまこども園1年目のチャレンジ～	最優秀賞
	2	共同	矢倉幼稚園 やぐらっこの会	矢倉幼稚園	小さな幼稚園の本気改革 ～アリはゾウになれるか～	最優秀賞
	3	共同	チーム あいさいな	山田幼稚園	学びに向かう力を育む遊びの充実 ～心が動く環境の在り方を探る～	優秀賞
	4	個人	谷口 ゆかり	笠縫幼稚園	遊びの中での主体的・対話的で深い学びをめざして ～なりきる・イメージする・友だちと一緒に楽しむごっこ遊びを通して～	優秀賞
	5	共同	心豊かなたくましい子どもの育成グループ	常盤幼稚園	人と関わる力を豊かにはぐくむ 教育活動のあり方について ～遊びの中の学びを通して指導の充実を図る～	優秀賞
フレッシュユ研究	1	個人	澤井 琴海	草津小学校	一人ひとりが主体的に考え、議論する道徳を目指して	奨励賞
	2	個人	山田 俊一	草津小学校	体育科学習における話し合い活動の研究 ～マトリクス表を活用して～	奨励賞
	3	個人	西村 歩美	草津第二小学校	道徳授業の創造 ～進んで仲間と関わりながら、主体的に学ぶ子どもの育成～	優秀賞
	4	個人	高木 絵梨華	草津第二小学校	仲間づくりに関する実践研究 ～共に協力して繋がる力の育成～	奨励賞
	5	個人	中田 麻依	渋川小学校	思考力を高める算数科の授業を目指して	奨励賞
	6	個人	北川 千恵	矢倉小学校	子どもが自ら行動する力を育む学級活動 一係活動の活性化を通して～	奨励賞
	7	個人	吉田 郁弥	老上小学校	児童が自ら読みを深める国語科学習の在り方 ～5年「見立てる・生き物は円柱形」の指導を通して～	奨励賞
	8	個人	水嶋 萌美	玉川小学校	思いを伝え合い、ともに学ぼうとする子どもの育成 ～オクリンクを活用した国語科の学習を通して～	優秀賞
	9	個人	岸本 和旭	玉川小学校	「日常生活」と「学習」のつながりを実感し、子どもに生きる理科学習の実践研究 ～第5学年『魚のたんじょう』の学習を通して～	奨励賞
	10	個人	奥野 光久	南笠東小学校	子どもたちが主体的に学ぶための授業づくり ～小学校第5学年「物のとけ方」の学習を通して～	最優秀賞
	11	個人	今中 元	山田小学校	体育科「ハードル走」誰もができた実感できる授業づくり ～タブレット機器を使った授業を通して～	奨励賞
	12	個人	小田 博樹	笠縫小学校	ICT機器を活用して考え、実践する授業づくり ～体育科の学習を通して～	優秀賞
	13	個人	片山 茂樹	笠縫小学校	児童の語彙力を高めるために ～毎時間の「挑戦状」の取り組みを通して～	最優秀賞
	14	個人	高原 明子	笠縫小学校	「自ら考える力」を育てる理科学習 ～「予想」を立てる活動を通して～	奨励賞
	15	個人	今澤 宏太	高徳中学校	表現力を育てる数科学習指導 ～電子黒板での発表を意識したノートづくりを通して～	最優秀賞
	16	個人	濱田 昂平	草津中学校	社会科におけるICTの有効活用 ～アニメーション教材の開発～	優秀賞

フレッシ ュ 研 究	17	個人	中田 利恵	玉川中学校	道徳における活発な意見交流のためのICT機器活用実践研究	優秀賞
	18	個人	若松 梓	玉川中学校	少人数指導の利点を生かした指導方法に関する実践研究 ～根拠のある意見を記述したり、発表したりする指導～	奨励賞
	19	個人	杉山 侑起	新堂中学校	理科教育における学びを深めるためのICT活用の実践	奨励賞
ステッ プ ア ッ プ 研 究	1	個人	高井 育夫	草津小学校	毎週の学校問題対策会議が学校を支え変えていく	最優秀賞
	2	共同	校内研究部	矢倉小学校	「子ども同士が高まり合う『特別の教科 道徳』における支援のあり方」	奨励賞
	3	共同	矢倉小学校 5年生	矢倉小学校	地域・環境学習を通じて、学習活動と実生活を結ぶ学習の試み	奨励賞
	4	個人	片桐 貴子	老上小学校	自らの読みを深め、考えを形成する国語科学習の在り方 ～2年生「おにごっこ」の単元を通して～	奨励賞
	5	共同	算数を楽しく するチーム	老上西小学校	算数が好きな子どもをめざした授業づくり ～教材研究と学級づくりを通して～	優秀賞
	6	個人	中井 善久	玉川小学校	小学1年生におけるICTを活用した情報活用能力の育成	教育研究所賞
	7	共同	南笠東小学校 30周年記念 プラス1研究 チーム	南笠東小学校	国語科において正確に文章を読む力をつける授業づくり ～内容を正しくとらえ表現することができる子どもの育成～	最優秀賞
	8	共同	笠縫東小環境 教育を考える会	笠縫東小学校	豊かな自然と共にある笠縫東っ子の育成 ～キーワードはSDGs～	奨励賞
	9	共同	常盤チェンジ・ メーカー育成 チーム	常盤小学校	学力向上を目指した授業づくり ～草津型アクティブ・ラーニングの実践を通して～	奨励賞
	10	個人	宮嶋 加奈江	常盤小学校	「本を読みたいと思える子どもを育てる授業の充実を目指して」	奨励賞
	11	個人	大西 智美	新堂中学校	実践から中学校道徳の評価を考える（中学校1年生） ～「道徳」教科化を見据えた評価につながるICT活用～	優秀賞
	12	個人	水谷 哲郎	松原中学校	「協働学習による深い学びを通した思考力・判断力・表現力の育成」 ～「知る」、「分かる」から「使える」学力を目指して～	優秀賞
	13	個人	東 周史	松原中学校	生涯スポーツを見据えた「できる」体育授業の展開	奨励賞
アイ デ イ ア	1	個人	藤井 悦子	山田小学校	段落にわけて書く 1マスさげることに自然に気づく	特別賞
	2	個人	曾我部 知奈 美	常盤小学校	子どもの活躍が輝く掲示板 (一度作ったものを1年間使用する方法)	優秀賞
			★校園所賞	草津中央おひさまこども園、矢倉幼稚園、矢倉小学校		



↑寺尾教育会会長より、副賞の授与



↑川那邊教育長より、賞状の授与



↑教育委員より総評



## 草津型アクティブ・ラーニングで授業改善 ～ スキルアップ支援講座を振り返って ～

スキルアップ支援講座は、子どもが興味・関心を持ち、やりたくなる授業づくりをめざし、ICT機器（電子黒板、タブレットPC等）の有効活用を重要な視点として取り組みました。BS教員の授業を参観することで、効果的な導入、学習意欲を高める「めあて」や肯定的な言葉かけ、発問の仕方、子どもの発言を繋ぐ授業、授業の流れが分かる板書、ワークシートの工夫等、大変参考になったという声が多くありました。第4回の研究授業では、夏季支援講座で研修したオクリンクを活用し、ペア学習やグループ学習を取り入れた、子ども主体の活動が展開されていました。また、研究協議を学年部で実施したり、校内研究に位置付けて全校体制で臨んだりした学校もありました。来年度もスキルアップ支援講座がさらに充実するように頑張ります。



### スキルアップ 対象者から



- ・改めて自分が教師として大切にしたい事や子どもの向き合い方を見つめ直す機会になったと思います。
- ・自分の傾向が分かり、気をつけなければいけないポイントが明らかになったので改善の視点が持てました。
- ・授業の進め方や視覚支援の仕方などたくさんのことを学ぶことができました。来年度は、学んだことを活かして、子どもが「楽しい!」と思えるような授業づくり、学級経営をしていきたいです。
- ・ICT機器を活用することで生徒の興味関心を高めたり、理解を深めたりすることができた。今後は、ICT機器をうまく活用するのはもちろんのこと「発問」を工夫していきたい。

## Pepper 社会貢献プログラム「スクールチャレンジ」参加校のプログラミング

2020年度の全国での小学校プログラミング教育実施まであと一年ですが、草津市では、すでに実績と経験が積み重ねられています。児童の成果として、一つ目はタッチタイピング、マウスまたはタッチパッドのスキルの向上。二つ目は、ブロックの順序や、「もし～なら」などの条件分岐を論理的に考える力の向上がありました。また、教員の皆さんも、ビジュアルプログラミングは、思ったよりやさしいと感じられたのではないのでしょうか。実際、学級担任の先生がメインで指導される授業がしだいに増えてきました。今後は、教科でのプログラミング活用事例を広げていくことと、複数のプログラミングツールの活用が課題と考えています。『プログラミングは、人の役に立つ。人を笑顔にする。』ためにあります。情報モラルの育成も意識しながら、「知新」にチャレンジしていきましょう。



【作ったアプリを低学年の子どもたちに紹介】

【漫才のプログラミング】【コンテスト参加作品を実演】



# やまびこだより

## 1月 特別活動 ～音楽体験～

昨年に引き続き、滋賀県次世代文化芸術センターの方に来ていただき、1月17日・23日に音楽体験を行いました。今年はドラムセットとマリンバの搬入、セッティングから子どもたちと一緒に活動しました。ばらばらになっていたドラムやマリンバを組み立てて、大きな楽器になっていく様子を見て感動していました。

はじめに基本のリズム打ちを習った後、米津玄師さんの「Lemon」やクィーンの曲、子どもたちがリクエストした曲を各自ドラマーになりきってセッションをしました。



平成30年度がもうすぐ終了しようとしています。3月8日（金）にお別れ会を行いました。この日が適応指導教室の中学3年生にとっては最終日となりました。大きく成長した自分たちの写真を見ながら、やまびこでの生活を振り返りました。中学3年生以外の子どもたちは3月18日（月）が今年度最後の日となります。

先生方にはお忙しい中、子ども達に会うために適応指導教室に来てくださったり行事を見学いただいたりし、子どもたちは照れながらも喜んでいました。ありがとうございました。



## 相談室から

やまびこ教育相談室の平成31年1月末時点での相談者延べ人数は、前年度の同時期に比べて100件近く増加しています。特に小学生の相談が2倍強になっております。

やまびこの事例です。不登校になった我が子への対応に悩んでおられる保護者に、ある先生が「一度、やまびこに相談されますか？」と、紹介してくださいました。その後、学校からやまびこに「もしかしたら相談があるかもしれないので保護者の気持ちを聞いてあげてください。」という連絡と、本児の学校での様子等を伝えて頂きました。事前に状況を聞かせて頂いていたので、保護者が納得できる面談が出来て、すっきりした顔でお帰りくださいました。

やまびこでは、保護者・児童生徒それぞれへの面談や本人へのプレイセラピーを実施し、学校と連携して複合的な課題を整理しながら、子どもたちが自らの力で問題に向き合っていけるよう支援します。今後ともよろしくをお願いします。



# 自信を持って発表できる 児童の育成をめざして

～平成30年度調査研究より～

- 1 研究員研究主題 子どもたちのプレゼンテーション力を伸ばす  
～社会科副読本「わたしたちの草津」を活用した授業実践～

## 2 研究概要

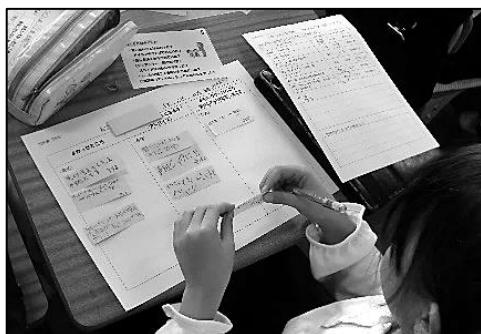
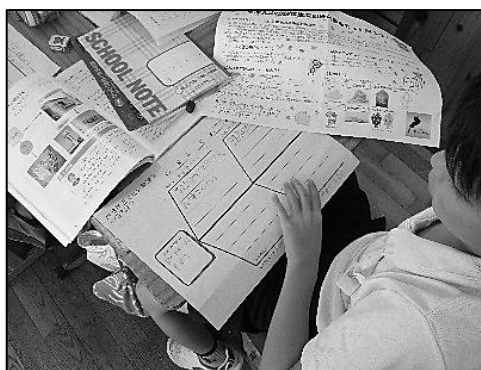
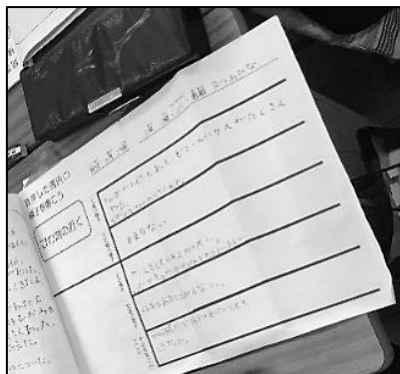
本研究は、課題の持たせ方や思考の可視化、ICT機器の活用を通して、子どもたちのプレゼンテーション力を高め、発表の質を向上させる研究である。

学習過程を、思考ツールやKJ法を用いて思考を可視化し、協働学習を進めることで「主体的・対話的で深い学び」の学習を実現することができ、「草津型アクティブ・ラーニング」を向上することができた。また、社会科副読本「わたしたちの草津」を活用することで、草津の町に対する課題を一人一人がしっかりと持つことができた。さらに、まとめの発表の際にICT機器を活用することにより、発表が苦手な児童も自信を持って取り組むことができ、発表の質も向上した。

## 3 研究の実際

本研究を進めるにあたり、以下の4つを実施した。

- ①市内全小学3年生による「発表に対する意識調査」
- ②草津小学校3年生での社会科副読本「わたしたちの草津」および思考ツール（思考の可視化を図る）を活用した実証授業
- ③実証授業校において、学習後に再度「発表に対する意識調査」を行い、児童の意識の変化を分析
- ④発表後に自己評価を行い、児童の変化を分析



本研究で使用した  
思考ツールの一部

左上：くま手チャート

右上：ボーン図

右下：PMIシート

#### 4 研究の経過

4月	研究の計画及び 授業実践協力依頼	11月 12月	授業の分析 研究報告書原稿執筆
5月～7月	草津小学校3年2組での 授業実践	～1月 2月	草津市立教育研究所だよりにて 研究内容を掲載
8月	授業の分析	3月	研究のまとめ
9月	市内全小学校3年生による 「発表に対する意識調査」の 実施と分析		
9月～11月	草津小学校3年生での授業実践		

#### 5 研究のまとめと今後の課題

##### 研究のまとめ

- (1) 思考ツールを活用したことで、子どもたちの考えが整理され、多面的に考えることができた。また、思考が可視化されたことで自分の意見に自信を持って話すことができる児童が増えた。
- (2) KJ法などの協働学習において、子どもたちがより積極的に話し合う姿が見られた。
- (3) 相手意識が持たせることで、児童の発表に対する意識が高まった。また、単元の終わりに児童が魅力を感じる学習活動の出口を設定することの重要性について、実証授業を通して再認識することができた。

##### 今後の課題

- (1) 子どもたちは、プレゼンテーションをする機会が少ない。自分の意見をしっかり持ち、課題を追究していく力とともに、その過程およびその成果を発信していく力も同時に育んでいくことについて、今後検証を進めたい。
- (2) 本研究では、社会科にプレゼンテーションを取り入れる活動を組み込んで実証授業を行った。こうした取組を他教科でも実践することで、児童の「話す」「表現する」力を多面的かつ横断的に伸ばすことができるのではないかと考える。加えて、その積み重ねによって草津型アクティブ・ラーニングの充実にもつなげることができると考える。
- (3) 今回の授業実践の記録を、草津市教材共有ポータルサイト「たび丸ねっと」に掲載したり、「わたしたちの草津」の活用指導案として市内小学校に配布したりする等、積極的な伝達方法や他小学校での検証についても検討したい。





# シリーズ 司書さんおすすめの絵本



## 「ロールパンバス」 (モカ子/さく・え 教育画劇)

小さなウィンナー君が初めて運転するロールパンバスは、ゆで卵やハムなどお客さんを次々に乗せて進んで行くのですが、満員になったバスはサンドイッチ山の頂上で止まってしまいました。バスは無事終点へ辿りつけたのでしょうか？

簡単な内容ですが、起承転結がしっかりしており、助け合う大切さも描かれています。また、柔らかな色合いで美味しそうな絵が子どもたちの興味を引き付けます。



## 「たとえば、せかいがゴロゴロだったら」 (高島 那生/作 講談社)

だれでも、ゴロゴロ寝っ転がるのは好きですが、外や学校では出来ませんよね。しかしゴロゴロ島では、学校へ行く時も授業時間もスポーツの試合も常にゴロゴロしています。

一日中ゴロゴロしているのは、一体どんな気分なのでしょう。テンポ良く進みながら、主人公である ユックリーノ一家のおじいさんが大発明したふとんの謎や島の成り立ちなど、本当の「ユックリ」について考えさせられる絵本です。



## 「みんながおしえてくれました」 (五味 太郎/作 絵本館)

子どもたちは、歩き方やかっこいい走り方、見つからない隠れ方、など誰に教えてもらったのでしょうか。

子どもたちの何気ない日常は、猫や蝶、蟻にふくろうとたくさん生き物の先生から教わり、考えることや覚えることなどは学校や友達から教わっているのかもしれませんが。

子どもならではの視点がとても面白いことや、子どもたちが吸収したり、発見していく姿に思わず『なるほど!』と感心します。卒園や卒業する子どもと一緒に大人も楽しめます。



読み聞かせにご活用を